図6

粉末防護体積	2017．728m3
必要薬剤量	2017．728x0．36=726．38
	窓開口（1．71x1．5x4）x0．5x2．7Kg=13．851
	［ 合計 ］ 726．38+13．851=740．231 →750Kg
タンク容量	全域放出（タンク容積の95%の薬剤量）
	800型x0．95=760Kgまで薬剤充填OK
	∴750Kgの薬剤量は800型のタンクでOK
加圧ガス量	薬剤1Kg当たり 40L必要（窒素）
	750Kgx40=30000L
	30000÷10200=2．941本
	∴3本でOK

注 記

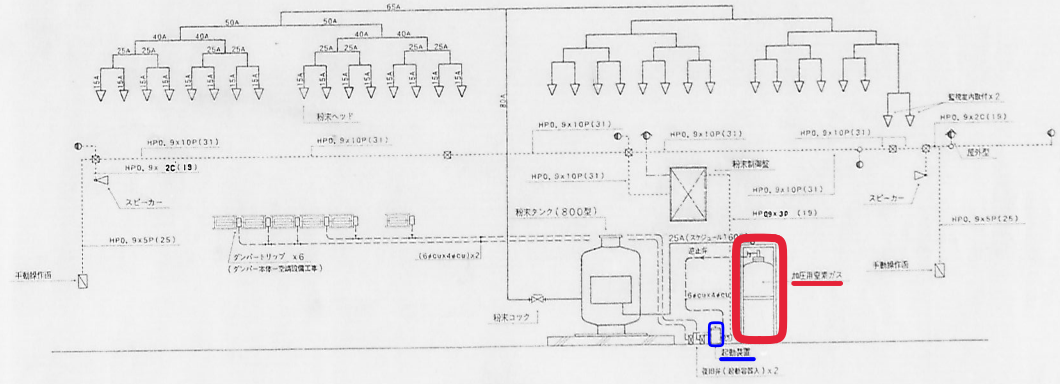
1． 扉は常閉であること （建築工事）

2． 粉末放出時、次のインターロックを取ること
  イ）換気ファン停止 （電気設備工事）
  ロ）機械室内のモーター，ポンプ等の停止 （電気設備工事）

3． ダクト等は、ダンパー取付とする（粉末設備連動）（空調設備工事）

4． 移信工事は、電気設備工事。

5． 窒素ガス加圧配管は、圧力配管用鋼管スケジュール160#
  粉末配管は、配管用炭素鋼鋼管（白）とする。


65A
50A
50A
40A
40A
40A
40A
25A
15A
80A
粉末ヘッド
HPO，9x10P（31）
HPO，9x 2C（19）
スピーカー
HPO，9x5P（25）
手動操作函
ダンパートリップ x6
（ダンパー本体ー空調設備工事）
（6φcux4φcu）x2
粉末コック
粉末タンク（800型）
粉末制御盤
HPO，9x3P （19）
25A（スケジュール160#）
逆止弁
6φcux4φcu
加圧用窒素ガス
起動装置
復旧弁（起動容器入）x2
監視室内取付x2
HPO，9x2C（19）
屋外型

粉末消火設備系統図

口座名		建築面積		延面積	
所在地		索引番号		図面番号	
構造		調整年月日	平成 年 月 日		
建物番号	建物名称	調整者職名			

共通図 整理番号

整理番号	5 - 8 - C
	平成 5 年 3 月 20 枚の内 18 号
	年 枚の内 号 年 枚の内 号
設計事務所名	アド・協栄・そうごう設備共同企業体
審査	主担当任者 担当
設計図名称	粉末消火設備系統図 （ 実習棟 ）
縮尺	—
工事名	北海道立北見高等技術専門学院改築衛生設備（実習棟）
	課長 参事 ~~主任技師~~ 係長 担当者
	北海道住宅都市部工営課

中厚 580×815